

エンジニアリング

エネルギーシミュレーションソフト

米国市場開拓に本腰

米国バイジョンを投入 海外展開加速

総合エネルギーコンサルタントのE. I. エンジニアリング(社長=小川彰彦氏、本社・神戸市中央区)は、米国市場開拓に乗り出す。先兵役を担うのは米国仕様のエネルギーシミュレーションソフト「Enepro 21 World Edit ion」。今年1月31日から2月1日まで米ネバダ州ラスベガスのコンベンションセンターで開催された世界最大の空調冷暖展「AHR EXPO 2022(国際空調冷暖房展)」に初出展し、「複数の企業から高い関心が寄せられた」と小川社長は手応えを話す。

「米国市場では、すでに先行しているソフトウェアがあるが、太陽光発電、CGS、蓄電池及び熱源設備全体の計算まで対応できていないようだ。当社のEnepro は、脱炭素社会実現に伴う米国におけるエネルギーシミュレーションのニーズに全て対応できる」とし、「6月をメドに普及に向けた動きに本腰を入れる」と小川社長は意気込みを示す。

再現が可能。発電コスト削減や省エネに関係する運転パラメータの影響を定量的に評価できる汎用技術ソフトは他にない(小川社長)という。これまで国内の大手建築設計会社、設備会社、エネルギー関連会社、大学など17社にライセンス供与し、発電設備(CCPP 170万5千kW、ガスタービンコージェネレーション44万1千400kW、ガスエンジンコージェネレーション59万1千400kW)をはじめ、地域冷暖房、大規模ビル、病院、ホテル、工場、工業団地などの省エネ・省コストでは累計68万1千200RTのコンサル実績を持つ。エネルギーシミュレーションソフトでは国内のデファクトスタンダードと目されている。

米国進出に当たっては、先にJETRO(日本貿易振興機構)の「新輸出大国コンソーシアム」支援企業に採択され、日本政策金融公庫のバックアップを得ている。「Enepro 21」シリーズはVer. 5.1まで進化し、同バイジョンでは日本企業の海外展開に対応するため、日本語と英語に切り替えて使える仕様とした。これを基盤に、米国仕様の「Enepro 21 World Edit ion」の開発に漕ぎ着けた。小川社長は「米国ではソフトウェアに対する理解度が非常に高く、さらにビルの省エネに関連したニーズも顕在化してきている」と同国市場での実績構築に注力する構えで、さらには東南アジア市場への進出

も視野に入れている。

日設連の要望書

【空調・冷凍設備産業の地位の向上】

空調・冷凍設備産業は、地球温暖化対策の一翼を担っているとともに、省エネルギー、高圧保安法の対象施設であります。こうした社会的責務を發揮するためには、空調・冷凍設備を設置・施工することも維持管理等を行う業として業種の独立、社会的地位の向上が必要と考えますので引き続き支援をいただきます。【空調・冷凍設備に係わる施工品質の向上、技術者の養成・確保】

フロンの漏えいを最小限に抑えるため、技能レベルの高い「施工技術者」を養成するための支援の継続と新冷媒対応の施工技術を得得るための支援をお願いしたい。付に、ろう付け技術者の